

1. はじめに

私は今回の留学でとても貴重な経験をする事ができました。素敵な出会いがたくさんあり、アメリカの生活や大学生活を楽しんで、大好きな可愛いものをたくさん見て、もちろん英語の学習としても大きな成果を得る事ができました。楽しかったことも苦労したことも半分ずつあり、その全てを含めて人として成長する事ができたと思います。今回はアメリカ留学に参加した理由や大学生活、授業、ホームステイについて、体験したことや考えたことを伝えたいと思います。

2. アメリカに出発するまで

私がアメリカへの留学を決めたのは、大学に入学する前からでした。小学生の頃に初めてもらったCDが洋楽であったことをきっかけに、英語を話せるようになりたいという憧れを持ち初めました。また、異国の文化や自然な話し方は、聞くだけではなく実際に体験しなければ理解できないと考えていたので、海外に住んでみたいという気持ちもありました。したがって今回の留学では、よりスムーズに英語を発音し話せるようになることや語彙力をつけること、さらに日本語の通じない海外で過ごし苦労することで人として成長することなどを期待していました。

3. ノースウェストでの大学生活



アメリカの大学は日本と比較するとはるかに広く、大学内に多くの施設があります。いくつもの寮と授業が行われる建物の他に、美術館やアリーナ、フットボールスタジアムまでが大学の敷地内にあり、勉強だけで終わることのない生活でした。食堂ではアメリカ料理だけでなくメキシコ料理やアジア料理なども食べる事ができるので、4か月毎日の食事をほとんど飽きることなく楽しめました。さらに学生向けだけでなく一般の方も含めた多くのイベントが毎日いくつも行われていました。私が特に楽しんだのはバスケットボールとバレーボールの試合です。大学のアリーナで行われる試合が本格的で、休憩のたびに

チアリーダーの演技も見ることができます。ルールは日本とすこし違うところがあって戸惑いましたが、日本人やアメリカ人の友人と一緒に何度も観戦しました。また寮生活では、一人部屋でルームメイトがいなかったため、交流の機会は減ってしまいましたが自由で快適に過ごすことができました。一緒に留学した仲間のほぼ全員が同じ建物の同じフロアに住んでいたため、いつでもみんなに会うことができ、これは私にとって大きなメリットでした。留学前は一人暮らしをしていたため、いつでもすぐ友人に会え、貸し借りをしたり聞きたいことを聞いたり、夜遅くまで勉強したり遊んだりできたことが、寮生活における一番の思い出です。仲間の誕生日にはみんなでパーティーをしたり、ロビーにあるビリヤードをしたり、キッチンで親子丼やオムライスを作ったり、楽しい寮生活でした。

4. 授業とクラスメイト

授業は基本的に4種類あり、TOEIC対策、リーディング・ライティング、リスニング・スピーキング、文法がメインでした。他にアメリカの歴史や文化を学ぶものや、2人に1人の学生がついて会話をするものがありました。クラスはレベルによって2つに分けられ、私のクラスには日本、韓国、中国、ブラジル、サウジアラビアの5か国からの生徒によって構成されていました。これらの授業によって私の英語のスキルは確かに上がったと思いますが、最初のうちはとても大変でした。授業初日、アメリカまで行って勉強するからには自分を追い込みたいと考えていたので、望んでいた上のクラスに入れたことでやる気を持って参加しましたが、あまりにも分かることがなく大きな不安だけが生まれました。先生たちの支持が聞き取れず何をすればいいかわからず、教科書の問題も理解できず、思ったように話せず、自分がどれだけ英語ができないかを思い知ることになりました。そこからしばらくは何もできない授業が大嫌いになり、憂鬱に感じながら日本人のクラスメイトを支えに毎日教室へ通っていました。それにもかかわらず、授業の進度は速く毎日たくさん宿題が出されていたため、ほぼ4か月を通して勉強に追われる毎日でした。その中でも大変だったのが、リーディング・ライティングの授業の毎週のレポート課題でした。新聞記事を要約したあと自分の意見を述べるもので、英語で記事を読み内容を理解することから始まり、日本のレポートと同じように本文と同じ単語を使わずパラフレーズすることや、自分の意見を述べる際は自分の国と比較することが求められるので、とても時間がかかるものでした。しかし時間が経ってみると、自分でも気が付かないうちに自然とできることが多くなっていました。毎日の授業とたくさんの課題によって語彙力がつき、レポートの書き方やよく使う言い回しを身に付け、自分の意見と理由を持ち、例を挙げて明確に示すことが前よりできるようになっていました。それは授業の外にも反映され、英語によるコミュニケーションがとりやすくなっていきました。最初は英語で話すことに緊張していた日本人以外のクラスメイトとも気軽に話したり、ジョーク言って笑い合ったりできるようになると、授業内容が大変な日でも教室が楽しくなりました。また、リスニング・スピーキングの授業ではスピーチ課題があり、難しくもとてもやりがいのあるものでした。

最終スピーチでは“Gender Issue”とテーマとし、インタビューを行い、本やインターネットの情報を引用して自分の主張を理由と証拠を挙げて5分程度でスピーチを行いました。これらを全て英語で行うのは骨の折れる作業でしたが、英語の勉強に加えてスピーチに関するスキルも同時に練習できたので、効果的に私を成長させてくれたと思います。他方ではプレゼンテーションにおけるグループ学習によって、お互い確実ではありませんが英語を用いてクラスメイトとうまく協力し、また人前で話すことによって正しい発音や文法に気を付けることで、同様に効果的に私を成長させてくれたと思います。

5. 5日間のホームステイ

今回の留学で私の一番の思い出となったのが、サンクスギビングデイの5日間ホームステイです。寮を出る2日前、予定していた友人の家の都合が悪くなってしまい行くあてがなく不安になりましたが、どうにか新しい家族を見つけてもらうことができ、当日の朝はじめてお会いしました。お世話になったフィリップ夫妻は、第一印象からとても明るく親切で素敵な方々で、会った途端に不安は一気になりました。彼らの家は、まずとにかく可愛い！という印象でした。アメリカの映画に出てくるような家で、大きくて広くて、アメリカンで可愛い小物がたくさん置いてあって、壁には写真や絵画が飾られ、家中がデコレーションされているような、私にとって「イメージ通りのアメリカのお家」でとてもわくわくしました。また彼らには家族が多く、ほとんど毎日を4つの家族と一緒に過ごしました。サンクスギビングデイ当日のディナーには家族だけでなく20人程が集まり、本当にたくさんの人と会うことができました。しかし、これまではいつも日本人と日本語で話す機会が必ず毎日あったのに、この5日間は本当に英語しか使えずハードなものでした。英語のみでコミュニケーションするのは私には難しく、うまく話したり感情を伝えたりできずにもどかしく申し訳ない気持ちに悩みましたが、特にフィリップ夫妻はそれを理解しうまく読み取って会話にしてくださったので、たくさんお話することができました。一緒にステイした中国人の友人とも、部屋で一緒に映画を見たりそれぞれ勉強をしたり、姉妹のように楽しく過ごせました。ステイしている間は、彼らの家のクリスマスデコレーションを手伝ったり、主人のボブが勤めているアンビュランスセンターを見学させてもらったり、教会に行って集会に参加したり、他にも寮ではできないような経験をさせてもらいました。ホームステイが終わったあとも、ディナーに呼んでもらったり隣町までイルミネーションを見に連れて行ってもらったりと、友人として接しアメリカをたくさん見せていただきました。本当に少しの時間しかなくて、もっと早くに出会っていたかったと思います。この留学で最も充実した素敵な出会いになりました。

6. おわりに

今回の留学は私が今まで過ごした中で最も貴重で意味のある経験だったと思います。学習面では授業だけでなく英語に囲まれて過ごすことによって、私の英語のスキルは確実に

上がったと思います。また勉強以外にも多くのことを学びました。アメリカの文化について、過ごしてみても一番感じたことは、会話がたくさんつくられていたということです。知り合いに会ったらあいさつの次に” How are you?” と声をかけ、スーパーなどのレジでも同様に聞かれることが多かったです。会話が生まれる機会が明らかに日本より多く、ことあるごとに自分の気持ちを伝えなければならぬので、人々が意思を持ちコミュニケーション上手になれる文化だと思いました。他にも、大好きな可愛いものをたくさん見ることができて、いろんな国に友人ができて、日本ではできない体験をして、たくさんの思い出をつくることができました。もちろん苦労することもたくさんあり、たくさんの課題に押しつぶされそうになったことやうまくコミュニケーションがとれずにもどかしく思ったこと、スカイプで連絡をとっていたものの家族や友達が恋しくなって泣いたことなど、数々の試練が私を精神的に強くしてくれました。相手がどう思うかではなく、自分の伝えたいことは伝えるということも学び、日本に帰ってきてから強くなった自分に気づいて驚きました。この4か月、素敵な出会いや経験に恵まれたのは、留学に行かせてくれた両親や大学の教職員の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

